

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 7 No 02

6 7 号

平成11年 2月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

お陰様で6周年



外来で気付いたこと 7

院長

- 薬の投与期間について -

久しぶりに、“外来で気付いたこと7”として、最近感じたことを書いてみます。

このところ薬を長く出して欲しいと言われることが多くなりました。また前回は長くもらえたのに、今回はもらえなかったという苦情がありました。確かにお母さん方も仕事で忙しいし風邪も流行っているし、病院には何度も来れないし来たくないと思うのかもしれませんが、当院での薬の処方日数は、だいたい3～4日です。小児科でももっと長くもらえるところもあれば、2日というところもあります。

いったい病院ではどんな基準で、薬の日数を決めているのでしょうか。まずは症状と曜日です。この関係なさそうなことが、実は関係があるのです。例えば発熱がある場合には、基本的には3日間と決めています。風邪などで2～3日続くことはよくあること、またそれ以上続く場合には肺炎や他の病気の可能性も出てくるのです。また薬の効果の判定には2日程度必要なのです。つまり病気の程度の判断と薬の効果の判断のため、3日間という答えが出てくるのです。医学的には直接関係がありませんが、曜日も一つの要件になります。木曜日午後と日曜日の休診を考えると、本来は休みが間に入るので2日分と言う答えも出てきます。木曜日の午後では保育園に行っている子は連れてくるのができません。また2日というのはほんとにすぐです、そこでお母さん達を信頼し便宜を考えて4日分出すことがほとんどなのです。熱が下がらない咳や嘔吐が止まらないなど特別な状況の場合には、1～2日分ということもあります。逆に慢性的な症状で軽症な場合には、5～7日間処方することもあります。

2月のお知らせ

2月20日は、開院記念日の

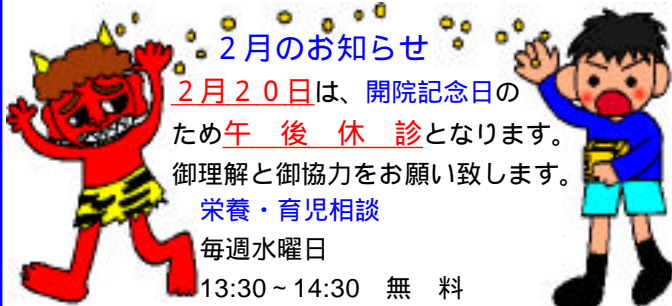
ため午後休診となります。

御理解と御協力をお願い致します。

栄養・育児相談

毎週水曜日

13:30～14:30 無料



しかしここで考えてもらいたいことは、誰のための薬なのかということです。薬はこども達のためであって、お母さん達のためではないのです。子供は急性期の病気がほとんどで、良くなるのも早いかわりに悪くなるのも早いものです。その悪くなるのを防ぐためには、経過の観察が必要なのです。ほとんどのお母さんは、ちゃんと子供状況に目を配り、悪くなれば早めに連れてくるでしょう。しかし親の勝手な都合で薬を長く出したために、遅れて重症になって苦しい思いをして連れてこられる子もいるのです。そんな子供は誰が守ってあげればいいのでしょうか。これを読んでいるお母さんは、私に限ってと思うでしょう。でも誰が子供に気を配るお母さんで、誰が気を配らないお母さんなのか、判断は難しいところです。ですから病院の立場としては、一定の基準で投薬日数を決めるしかないのです。

熱が高かったり気管支炎でゼーゼーしている子供を前にして、「仕事が忙しく病院に来れないので薬を長く出して欲しい」と言われて、「はいはい、どうぞ」と答えるわけにはいかないのです。前回と今回は症状が違うので、薬の日数が変わるのも仕方ありません。小生も人間ですから、どうしてもと言う場合には長く出してあげています。ただ理由もなく「薬を長く出して欲しい」ではなく、ちゃんと理由をつけてもらえればと思います。

薬の日数を患者さんが要求するのは、身勝手なことだと思います。レストランに行って料理の量が少ないから、量を増やすような要求はしないはずですが、でもこちらもなるべくお母さんの都合は、病気の次に考えてあげたいと思います。基準をこちらが変えるわけですから、ちゃんと礼儀を守って言ってもらえるとありがたいと思っています。こんなことも感じながら、診療しているということも知っていて下さい。この新聞をいつも読んでもらっているお母さん達には関係ない記事かもしれませんが、悪しからず！！

新しい看護婦さんです。皆さんよろしく！！

はじめまして、**櫛引 美香(くしびき みか)**です。今までは病棟看護などの経験があり、今回初めて小児科で働くことになりました。不慣れな事が多いですが、がんばっていきたいと思います。宜しくお願い致します。

読者の広場

先月号の腹痛顛末記の掲載のあと、御心配やねぎらいの言葉をたくさん頂き、ありがとうございました。電子メールで青葉区の寺田さんから医療相談とともに投書をいただきましたので、紹介します。“川村先生、今日はどうもありがとうございました。（医療相談部分省略）追伸：これは質問と全く関係ありませんが、川村先生が年末に大変だったことをクリニック新聞で知り、驚きました。そしてそんな状況の中で診察をされてたとは・・・。子供たちのことをいつも考えて下さる川村先生には本当に頭が下がります。そして、私はお母さんクラブに参加させていただいてましたが、たださえ川村先生のところは忙しいし、診察時間も長いのに、その様な会を設けて下さって、本当に感謝しています。こんなにお母さんや子供のことを考えてくれる小児科は珍しいのではないのでしょうか。いつも一生懸命な川村先生やスタッフの皆さんに心から御礼申し上げます。2月20日はクリニックの創立記念と従業員慰安で、午後休診とありましたが、私は、患者としてはありがたいのですが、いつも一生懸命なのですから、丸1日お休みしてもいいのではと勝手に思っていました。”小生のやっていることが理解されていると思うと、うれしいかぎりです。ありがとうございました。こういうお手紙を頂くと、また頑張らなくちゃと思ってしまう。

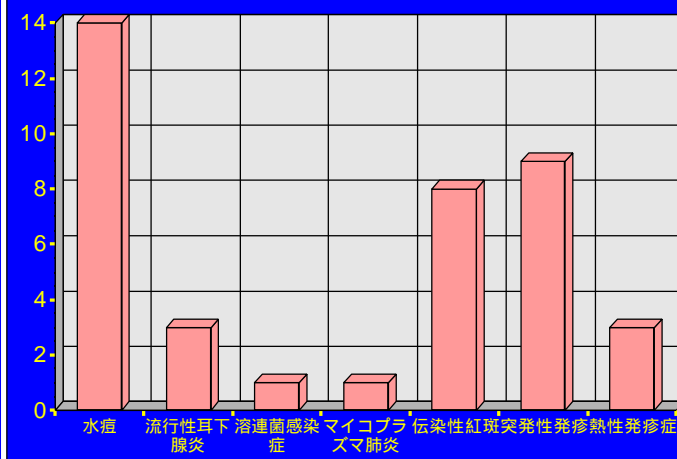


「お母さんクラブ」やっと1年が経ちます。お陰でここまで何とか順調に活動できました。今月予定していましたが、都合で3月に延期します。4月からはまた新しい体制で、続けていきたいと思っています。宜しくお願い致します。

以前からお知らせしていた「すこやかさん こんにちは」は、予算の都合で今年で最後になりそうです。5年間も関係してきたので、小生も何となく淋しい気がします。2月20日に最後の放送があります。テーマは「子育てQ&A」で、小生も担当します。最後ということもあり、できればご覧下さい。

これからは宣伝です。最近患者さんからメールをいただくことが多くなりました。インターネットもずいぶん身近な存在になってきました。3月の下旬にエスシーという出版社より、育児中のママが使える『オススメホームページ100（仮）』と題した本が出版される予定です。当院のホームページが、小生の写真入りで紹介される予定です。詳しく分かりましたら、また紹介します。

1月の感染症の集計



水痘がまた増加しています。伝染性紅斑（りんご病）が見られるようになってきました。毎月お知らせしている感染症では、他にはあまり流行はないようです。グラフには示していませんが、インフルエンザは84名でした。マスクミで騒がれているほど、小児には流行はしていません。現在のところ仙台で分離されているウイルスは、A香港型です。ちなみに大流行の昨年は1月で100名、2月では200名を越えていました。今年は子供より大人に多くみられているようです。老人の施設での肺炎による死亡や小児の脳炎脳症が報道されていますが、これは特別ということではなく毎年のことなのです。このとき必ず問題となるのが予防接種です。予想では、今年はそんなに大流行にはならないようです。むしろ感染性胃腸炎（嘔吐下痢症）の方が、インフルエンザより多くみられています。

インフルエンザの治療について一言。昨年12月にインフルエンザの治療薬「アマンタジン」が認可されました。この薬はA型インフルエンザにのみ有効で、B型には効果がありません。発症後48時間以内に使用することで、発熱期間を短くするといわれています。しかし短期間に耐性ウイルスが出現するという研究もあります。小児の使用に関しては、副作用などの十分な安全性の検討がなされていません。もう少し様子を見てから、使うかどうか考えたいと思っています。

「すこやかさん こんにちは」放送予定

皆さん御存知のように、院長は、「すこやかさん こんにちは」テレビ育児相談の部長をしています。そのスケジュールをお知らせいたします。放送は、

東北放送で午前10:00～10:30です。

上段はメインテーマ、下段はすこやか健康メモです。

2/6(土) ママ いってらっしゃい
歯

2/20(土) 子育てQ&A
誤飲

院長の担当は、子育てQ&Aです。興味のある方は、ご覧になってください。内容についてのパンフレットがあります。希望の方は受付まで。

編集後記

マスクミのインフルエンザ報道と裏腹に、思ったほどの流行ではないというのが現状です。あるお母さんの話で、当院が大変混雑しているという噂がたっているようです。そんなに混んでもいいのに、うれしいやら、悲しいやら。

